

2014年度 第2回 事務懇談会での挨拶

明けましておめでとうございます。皆さんはどのような新年をお迎えになりましたでしょうか。

老人大学は、昨年度、創立40周年を迎え、様々な記念事業に取り組み、今年度は創立50周年に向けた新たな10年の第1歩を踏み出しています。

老人大学は、福山市が設置する公（おおやけ）の生涯学習施設であることから、私は、学長就任に際して、大学運営の基本を公共性・公平性・公開性とすることを表明してきました。

そして、学生の皆さんには、単なる受講生やお客様ではなく、伝統ある本学の学生としての自覚を持っていただき、自ら進んで学ぶ自主性、自らを律して学内規律を確保する自律性、そして共に学ぶ者同士としての友情を大切にしてくださいとお願いしてきました。

さらに、日常の学生生活を「健やかに・穏やかに・和やかに」過ごしていただきたいとお願いをしてきました。

「健やかに」については、昨年初めて、2月と8月に保健所と連携した健康診査を、老大会場に実施しました。この検査で病気が早期に発見され、無事手術を終えて元気に大学に戻って来られた方から健康診査へのお礼の言葉を頂くことが出来ました。

この取り組みは、次年度も夏休みに実施する予定であります。

「穏やかに」については、通路にまで駐車せざるを得ない状況の中で我先に帰ろうとして、声を荒げる学生がいましたので、職員3人体制で下校誘導を行ない、相当程度、改善することが出来たように思います。

「和やかに」については、学生会本部役員の皆さんのご協力を頂いて、学生

会総会や委員長会議などを和やかに和気あいあいに進めて頂いております。

また、これまで先輩達が獲得された条件を精一杯活用する観点から、昨年の6月と10月の全員教養講座は、リーデンローズ大ホール一杯の出席を得て、為になる話と爽やかな演奏で好評を博すことが出来ました。

老人大学の最大イベントの学生祭は、前日準備も当日運営も晴天に恵まれ盛大に開催することが出来ました。それぞれの発表がとても素晴らしく、学生会がお世話されたバザーは過去最高の売り上げを記録しました。

事前の段取りを改善したことで、前日準備も後片づけも例年になくスムーズに出来ました。

一方、1、駐車場の混雑 2、展示場所の不足 3、芸能発表の控室などスペース不足からくる課題が続いています。

この課題については、本日この後、具体的改善策を提示しますので、ご検討いただきたいと思います。

さらに、これも後ほどご説明しますが、学生数を100名増やして3年前の2700名に戻すための本講座改革についてもご理解を賜りたいと存じます。

本日の事務懇談会は、新年会を兼ねておりますが、前半は、しっかりのご協議いただいて、その後はゆっくりと歓談いたしたいと思います。

何れにしましても、老人大学の日常運営は、学生会と事務局が連携を密にして責任を持って行なっていくことが何より大切です。

その意味で本日の会が実りあるものになることを祈念して開会にあたってのご挨拶といたします。